

# 2018夏期スケジュール 国際線定期便の概要

2018夏期スケジュール（2018年3月25日～2018年10月27日）期間の事業計画について、航空会社117社（本邦8社/外航109社）から申請があり、3月20日付で認可。

**運航便数全体の動向**（注：当初認可時における第1週目の運航便数、今後期中での増減はあり得る）

旅客及び貨物便合計で**過去最高の5,474.5便/週**。

本邦社：**1,516便/週**（27.7%）（'17夏期比+34便/週・'17冬期比+29便/週）

外航社：**3,958.5便/週**（72.3%）（'17夏期比+271.5便/週・'17冬期比+158.5便/週）

## 主な動向

○**方面別の動き：LCCを中心としたアジア方面の着実な増加に加え、欧州方面も増加**

【タイ】**全日空**が今期中に羽田=バンコク路線を**増便**。**タイエアアジアX**が今期中に新千歳=バンコク路線に**初就航**し、併せて成田=バンコク路線を**増便**。**タイ国際航空**も今期中に成田/中部/新千歳/福岡=バンコク路線を**増便**。（2017年10月20日付にてタイ社に対する路線開設及び増便制限を解除）

【台湾】**バニラエア**が福岡=台北路線に、**タイガーエア台湾**が旭川=台北路線にそれぞれ**初就航**。

【欧州】**エールフランス**が羽田/関西=パリ路線を、**ルフトハンザ航空（ドイツ）**が中部=フランクフルト路線を、**LOTポーランド航空**が成田=ワルシャワ路線をそれぞれ増便。今期中には、**シベリア航空（ロシア）**が成田=イルクーツク/ノヴォシビルスクに**初就航**し、**イベリア航空（スペイン）**が成田=マドリッドを**増便**。

○**地方空港の動き：近距離アジア路線の着実な増加**

**旭川空港**へ**タイガーエア台湾（台湾）**が**初就航**。また、**岡山空港**にて**タイガーエア台湾**が、**佐賀空港**にて**ティーウェイ航空（韓国）**がそれぞれ**増便**。

'17冬期中には**小松空港**へ**タイガーエア台湾**が、**熊本空港**へ**香港エクスプレス（香港）**が、**宮崎及び鹿児島空港**へ**ヘイスター航空（韓国）**がそれぞれ**初就航**し、今期も運航を継続。

○**LCCの動き：継続的なLCC比率の拡大**

**'17冬期比で110.5便/週増**となり、**旅客便数に占めるLCC比率が27.1%**に。うち韓国社による増便が43便/週。

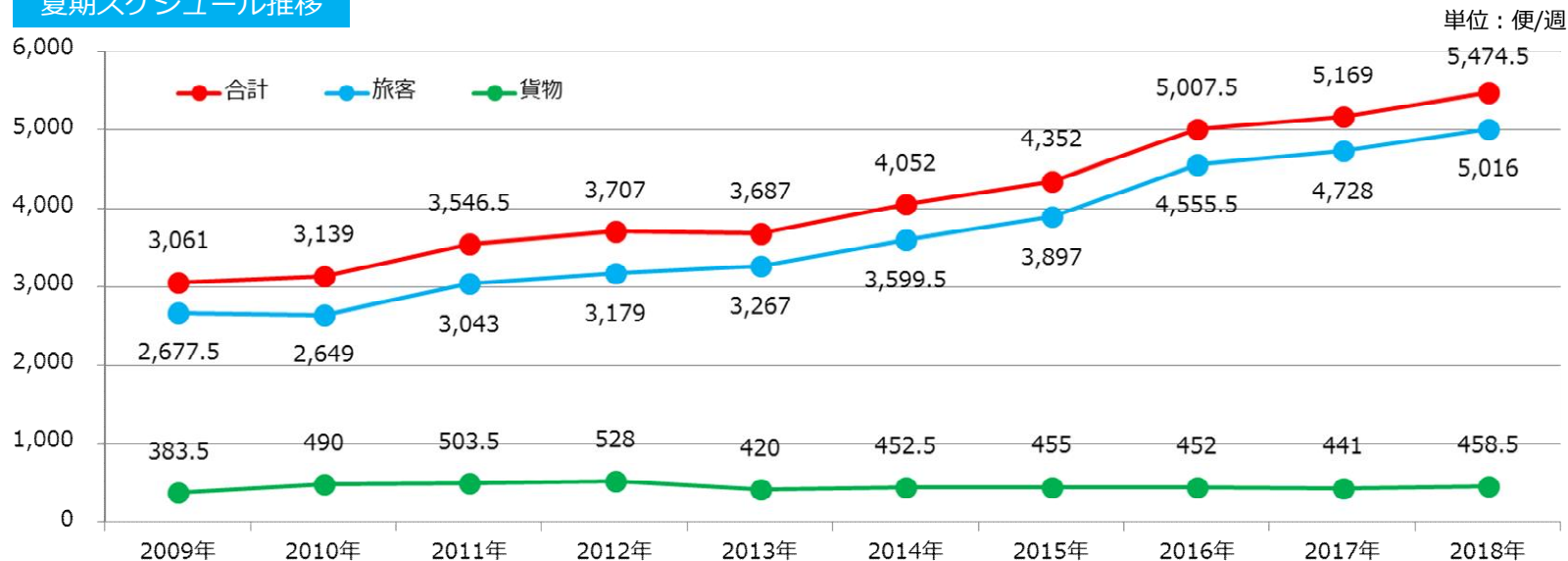
# 2018夏期 国際線 旅客・貨物別動向

【旅客便】 増便傾向を維持し過去最高便数に。成田及び関西空港での増便が寄与。  
 【貨物便】 近年の減便傾向から転じ増便へ。シルクウェイ・ウエスト(アゼルバイジャン)の関西及び小松空港初就航等が寄与。

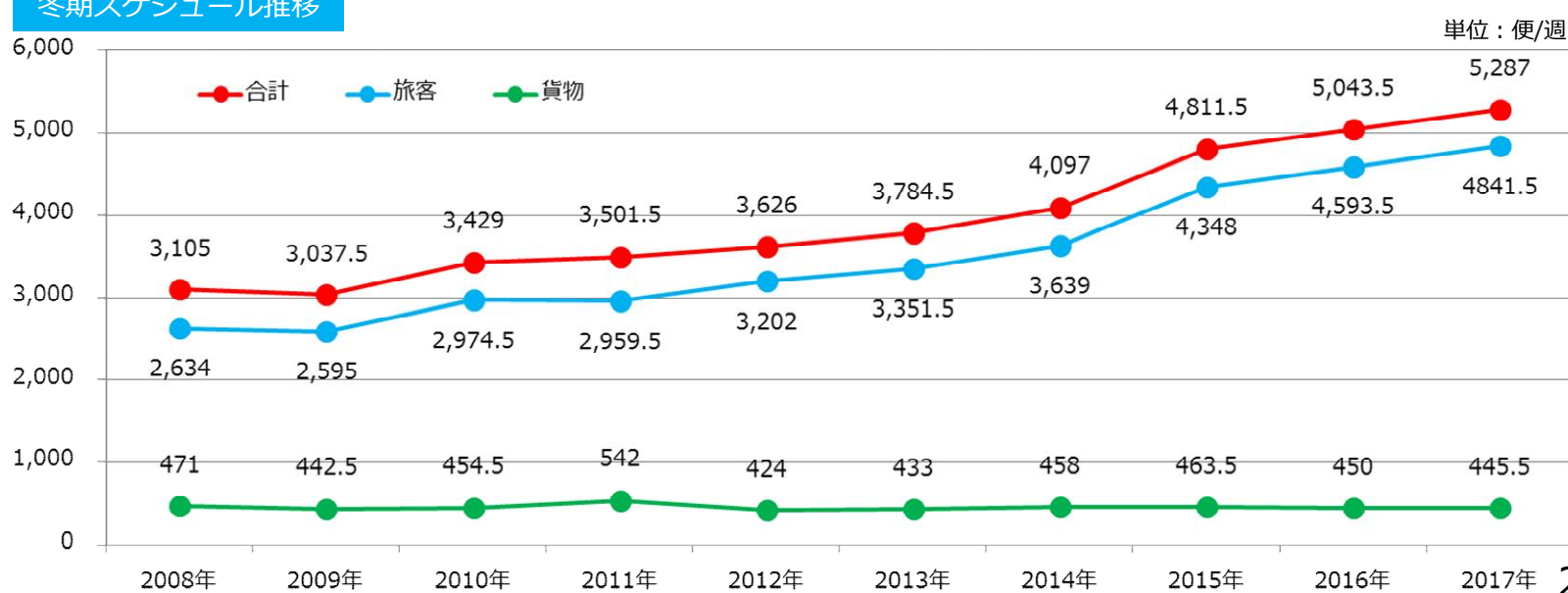
単位：便/週

空港	2018 夏期		2017 冬期	2017 夏期	
	17冬期比	17夏期比			
<b>旅客</b>					
成田	1,672	51	61.5	1,621	1,610.5
羽田	783.5	8	25.5	775.5	758
関西	1,210.5	53	97	1,157.5	1,113.5
中部	327	1	-21	326	348
地方	1,023	61.5	125	961.5	898
福岡	370	23.5	42	346.5	328
那覇	202	15	16	187	186
新千歳	169	1	25	168	144
その他	282	22	42	260	240
計	5,016	174.5	288	4,841.5	4,728
<b>貨物</b>					
成田	256.5	3.5	13	253	243.5
関西	148.5	7.5	13.5	141	135
中部	20	0	0	20	20
地方	33.5	2	-9	31.5	42.5
那覇	27.5	0	-11	27.5	38.5
その他	6	2	2	4	4
計	458.5	13	17.5	445.5	441
<b>全体</b>					
成田	1,928.5	54.5	74.5	1,874	1,854
羽田	783.5	8	25.5	775.5	758
関西	1,359	60.5	110.5	1,298.5	1,248.5
中部	347	1	-21	346	368
地方	1,056.5	63.5	116	993	940.5
福岡	370	23.5	42	346.5	328
那覇	229.5	15	5	214.5	224.5
新千歳	169	1	25	168	144
その他	288	24	44	264	244
計	5,474.5	187.5	305.5	5,287	5,169

夏期スケジュール推移



冬期スケジュール推移



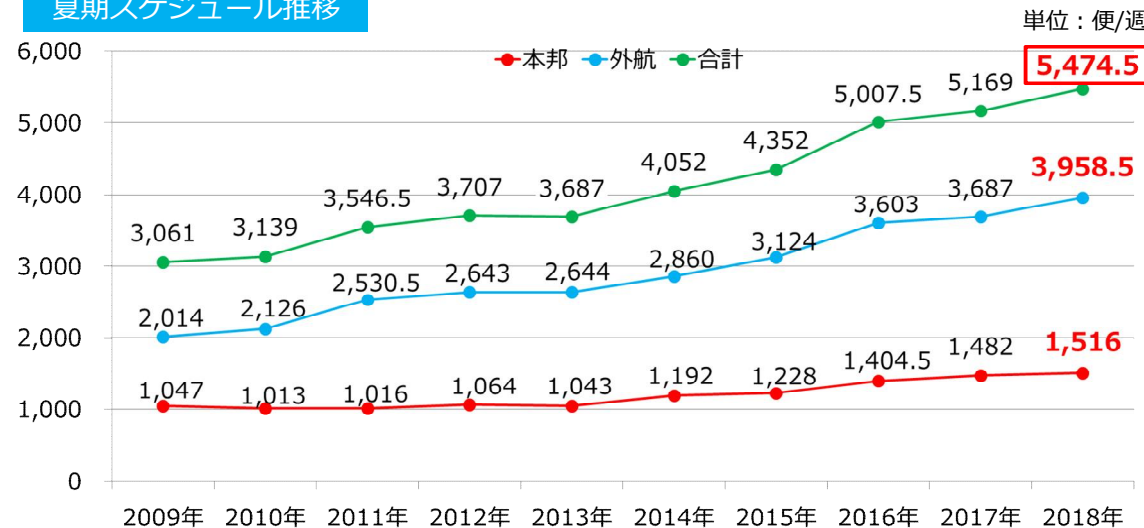
# 2018夏期 国際線(旅客・貨物便) 国籍別動向

【本邦社】 1,516便/週 (27.7%) ('17夏期比+34便/週・'17冬期比+29便/週)  
 【外航社】 3,958.5便/週 (72.3%) ('17夏期比+271.5便/週・'17冬期比+158.5便/週)  
 国籍別最多は韓国社で1,040便/週(外国企業のうち26.3%)、次に中国社で756便/週(同19.1%)  
 また、便数の増加が目立つのは東南アジア社で'17冬期比+34.5便/週。本邦社も同比+29便/週。

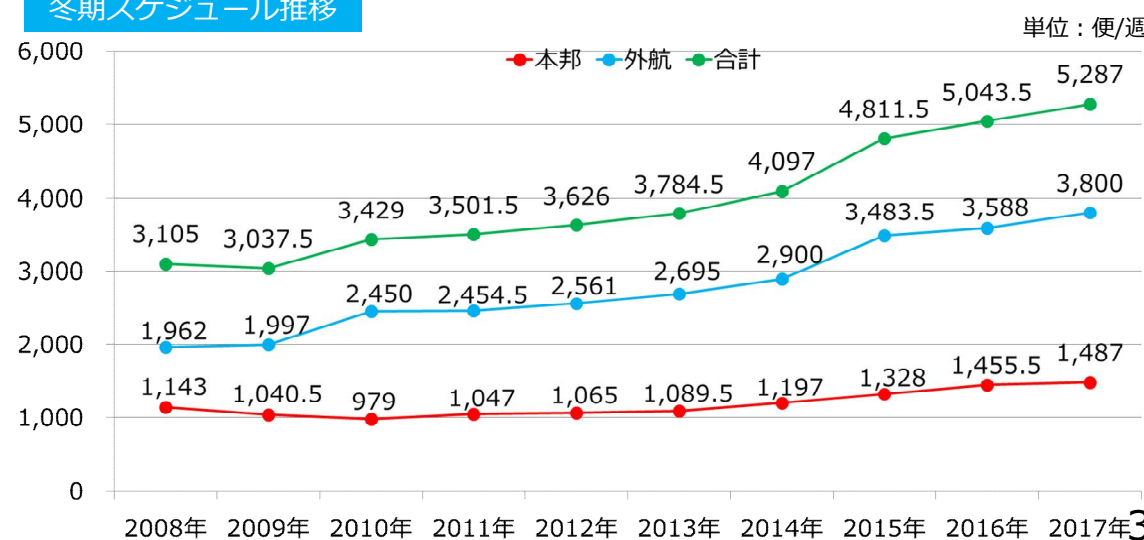
単位：便/週

航空会社国籍	2018 夏期		2017 冬期	2017 夏期
	17冬期比	17夏期比		
日本企業	1,516	29	1,487	1,482
外国企業	3,958.5	158.5	3,800	3,687
韓国	1,040	27.5	1,012.5	882
中国	756	22	734	771
台湾	423	18	405	399
香港	372	23	349	344.5
東南アジア	506.5	34.5	472	435
その他アジア	34	-1	35	33
米国	484.5	3.5	481	509
ヨーロッパ	201	25	176	177.5
北アジア	58	5	53	52
中東	53.5	-1	54.5	55.5
その他	30	2	28	28.5
計	5,474.5	187.5	5,287	5,169

夏期スケジュール推移



冬期スケジュール推移

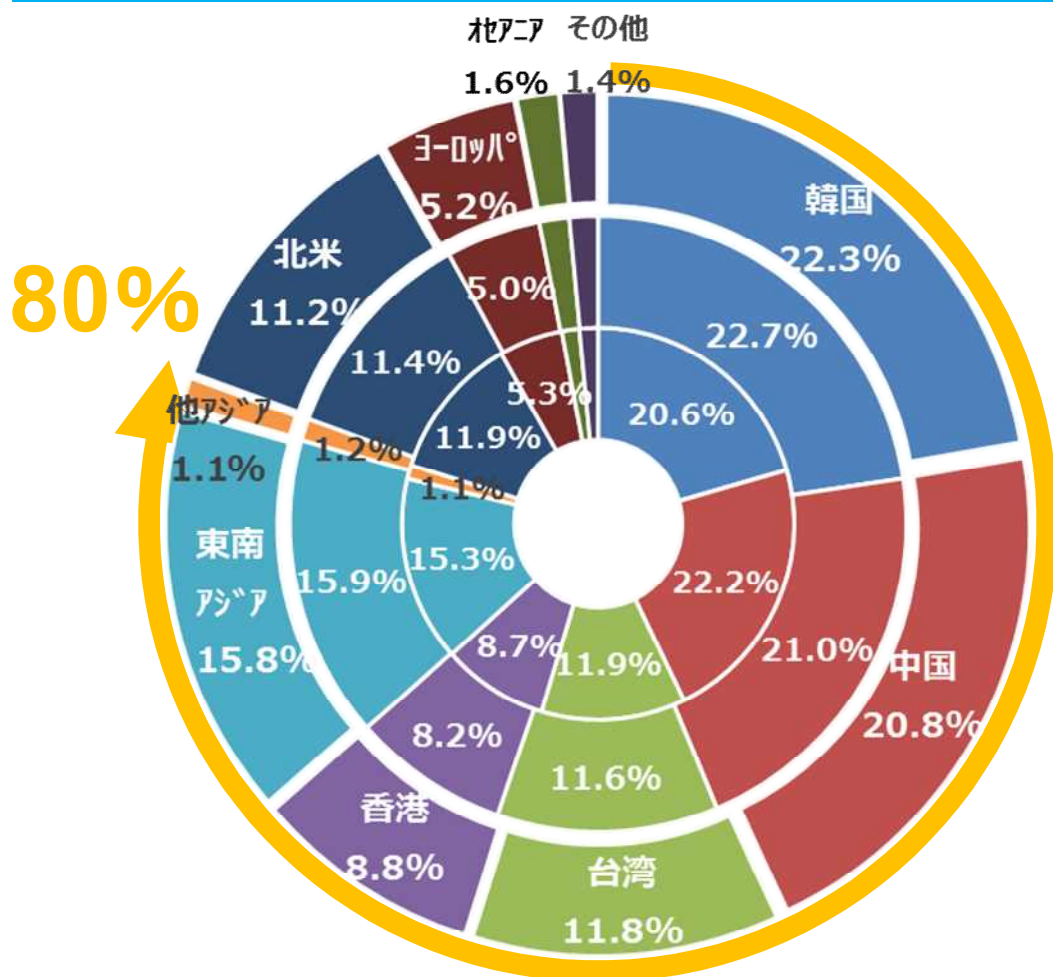


# 2018夏期 国際線(旅客便) 方面別・空港別内訳

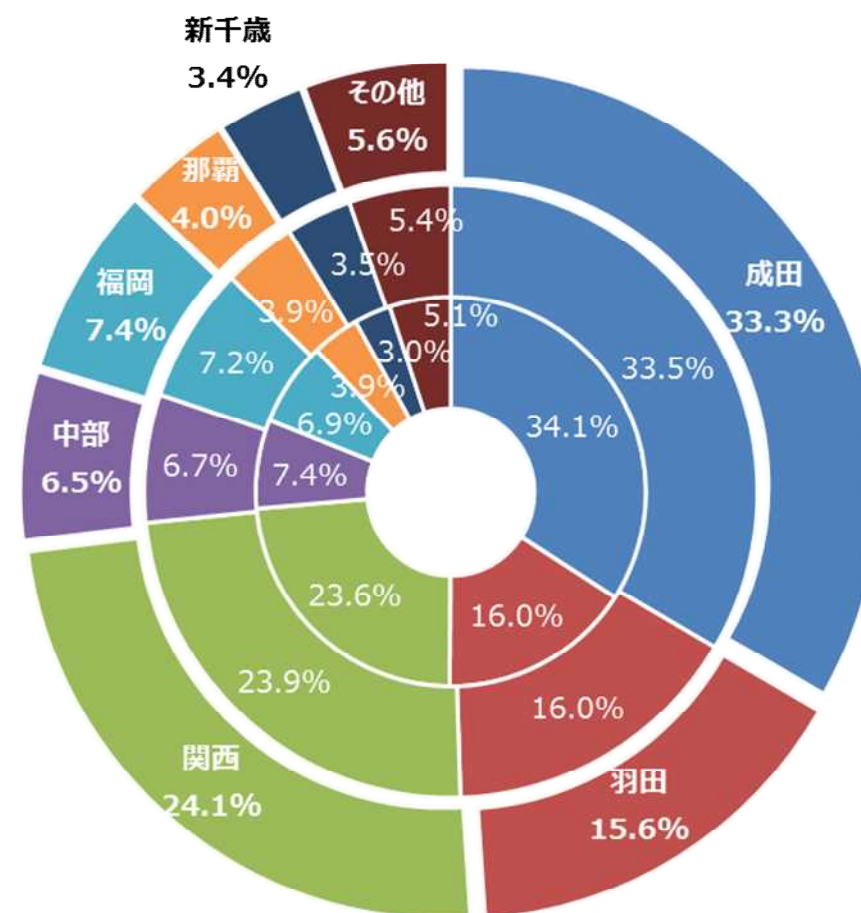
【方面別】 アジア方面の便数が全体の約80%を占める。アジアの中で最多は韓国方面で、次いで中国方面、台湾方面の順。シェア順位に変動はないがシェア増加が目立つのは香港方面。

【空港別】 成田・羽田空港で全体の約半数を占めるが、成田・羽田空港以外でのシェア拡大により、成田・羽田空港のシェアは微減傾向。

## 方面別



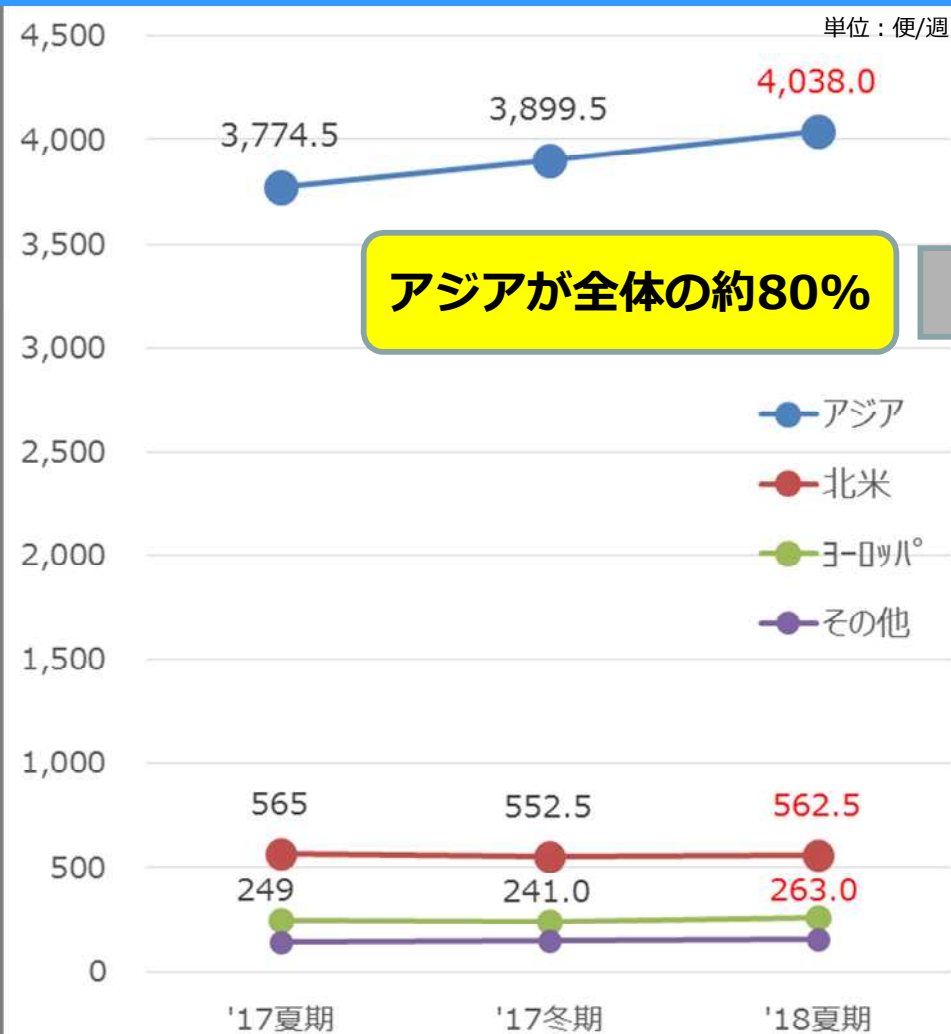
## 空港別



# 2018夏期 国際線(旅客便) 方面別推移

旅客便全体の約80%を占めるアジア方面の増加傾向が継続しており、'17冬期比では基本的に全方面で増加。特に香港ドラゴンや香港エクスプレスの香港社の増便等により香港方面が増加しており、タイ国際航空やタイエアアジアXのタイ社の増便等により東南アジア方面も着実に増加している。

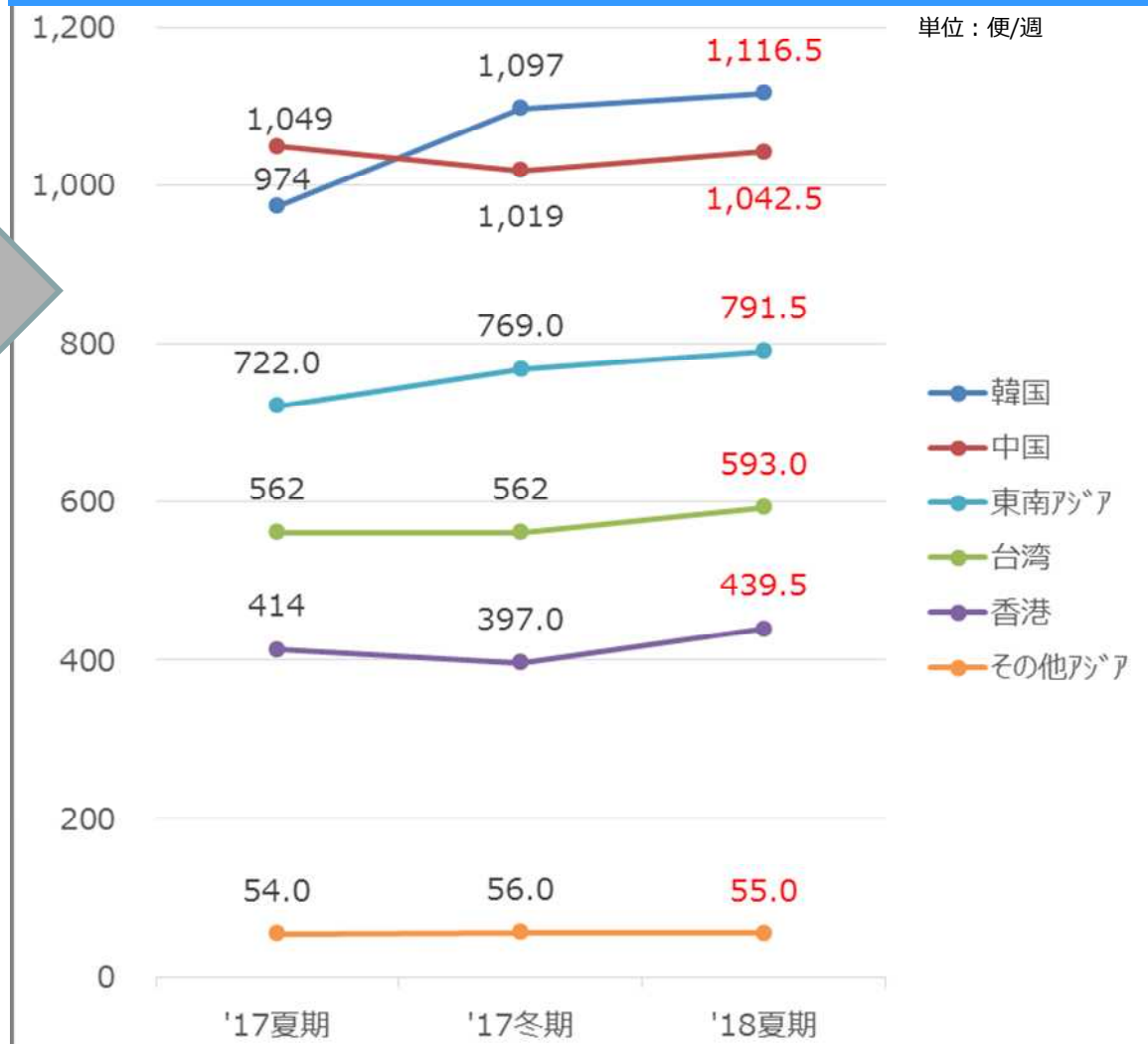
### 方面別内訳



**アジアが全体の約80%**



### アジア内訳



# 2018夏期 国際線(旅客便) 空港別推移(成田・羽田)

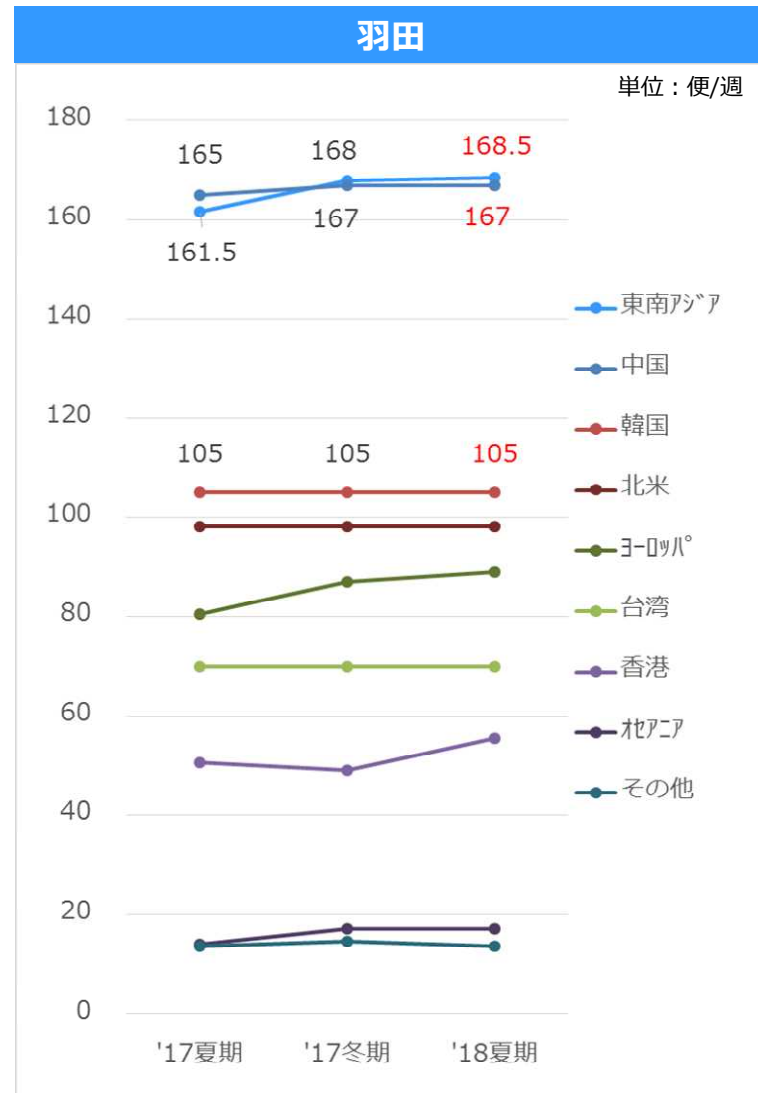
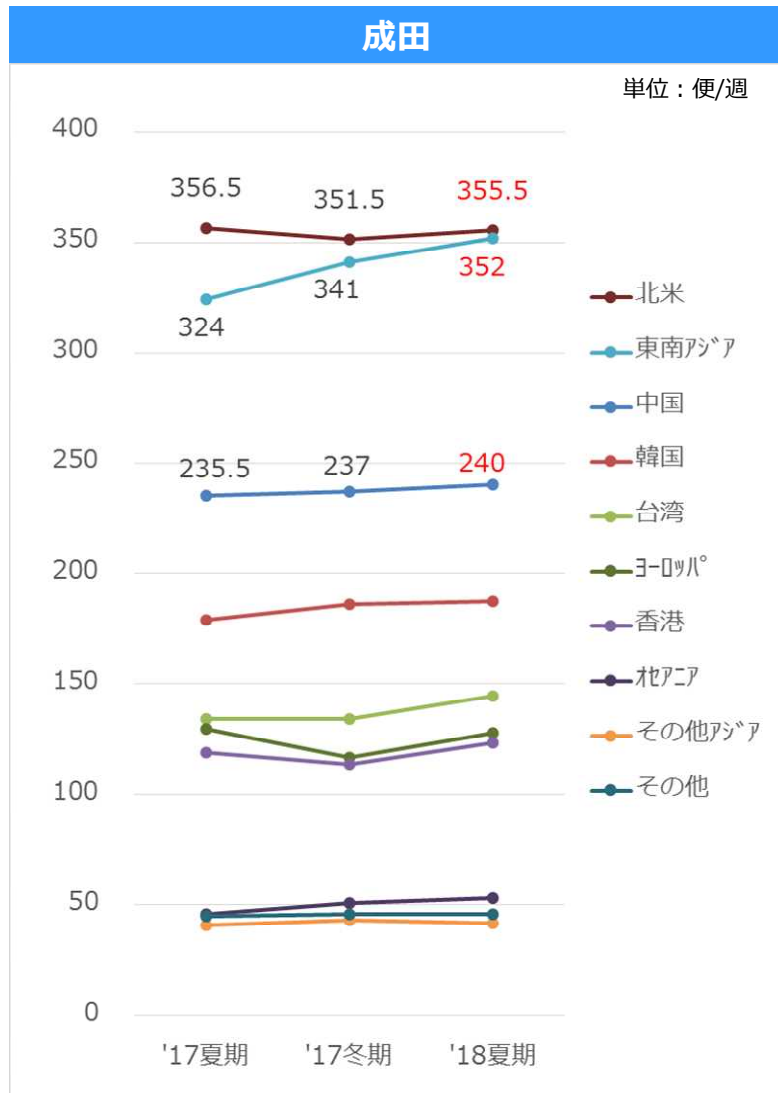
【成田】 グアム線は日本航空が増便する一方、デルタ航空が'17冬期中に運休。タイ国際航空及びタイエアアジアXがバンコク線を増便。仁川線はエアソウル及びティーウェイ航空が増便する一方、日本航空が運休。LOTポーランド航空がワルシャワ線を増便。

【羽田】 エールフランスがパリ線を増便。香港ドラゴン航空が一時運休中であつた香港線を復便。

単位：便/週

成田	'17夏期	'17冬期	'18夏期
北米	356.5	351.5	355.5
東南アジア	324	341	352
中国	235.5	237	240
韓国	179	186	187.5
台湾	134.5	134.5	144.5
ヨーロッパ	130	117	128
香港	119	114	123.5
オセアニア	46	51	53
その他アジア	41	43	42
その他	45	46	46
<b>合計</b>	<b>1610.5</b>	<b>1621</b>	<b>1672</b>

羽田	'17夏期	'17冬期	'18夏期
東南アジア	161.5	168	168.5
中国	165	167	167
韓国	105	105	105
北米	98	98	98
ヨーロッパ	80.5	87	89
台湾	70	70	70
香港	50.5	49	55.5
オセアニア	14	17	17
その他	13.5	14.5	13.5
<b>合計</b>	<b>758</b>	<b>775.5</b>	<b>783.5</b>



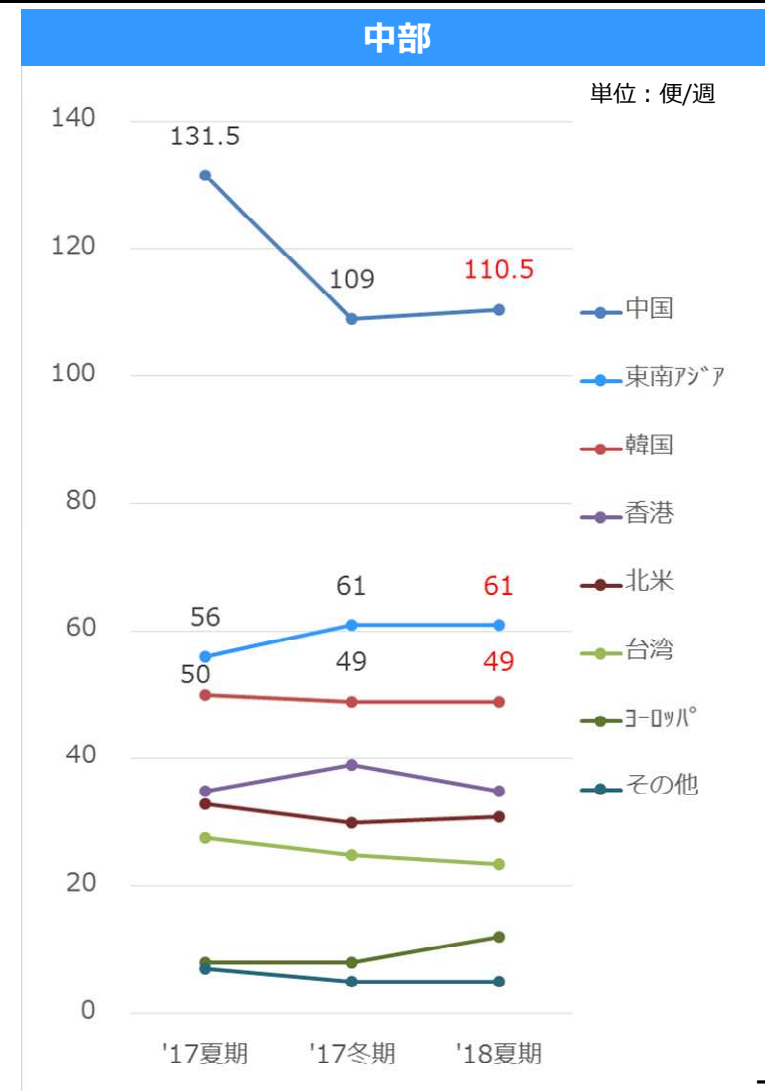
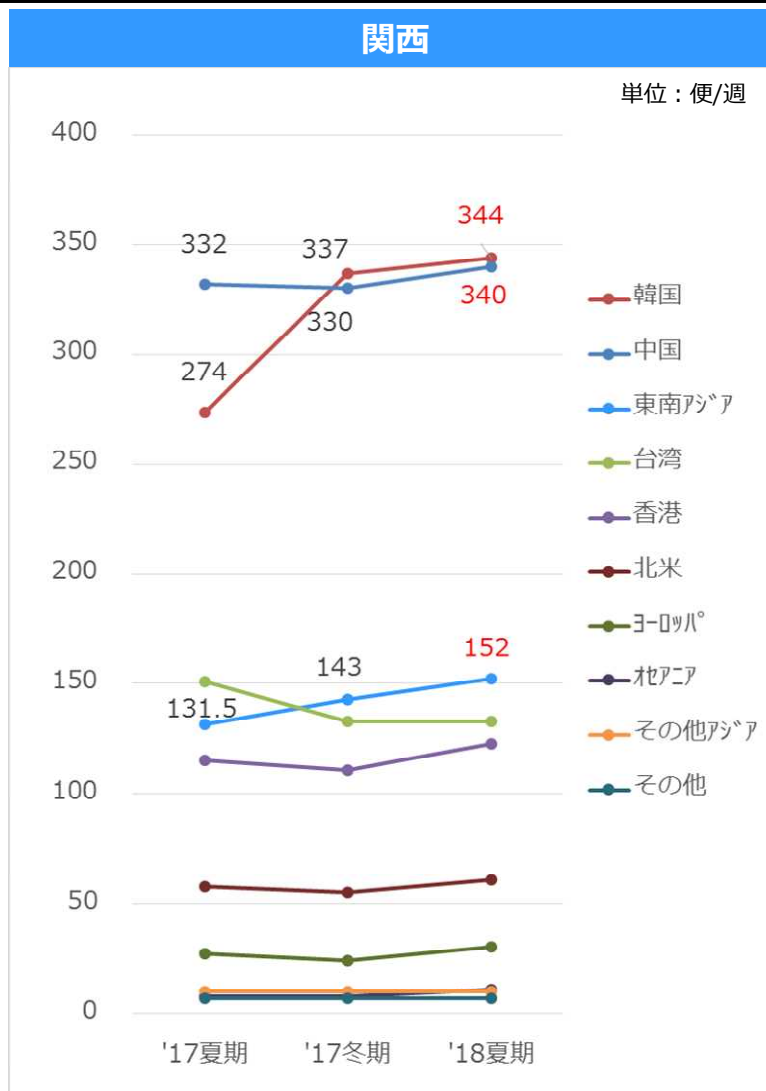
# 2018夏期 国際線(旅客便) 空港別推移(関西・中部)

【関西】韓国方面ではジンエアー及びエアソウルが仁川線を増便。東南アジア方面ではジェットスターアジア航空及びスクート・タイガーエアがシンガポール線を増便。北米方面ではユナイテッド航空がサンフランシスコ線を、スクート・タイガーエアがホノルル線（以遠路線）をそれぞれ増便。ヨーロッパ方面ではエールフランスがパリ線を増便。

【中部】ヨーロッパ方面ではルフトハンザドイツ航空がフランクフルト線を増便。一方、香港方面では香港エクスプレス航空が減便し、全体としては横ばい。

単位：便/週

関西	'17夏期	'17冬期	'18夏期
韓国	274	337	344
中国	332	330	340
東南アジア	131.5	143	152
台湾	151	133	133
香港	115	110.5	122.5
北米	58	55	61
ヨーロッパ	27	24	30
オセアニア	8	8	11
その他アジア	10	10	10
その他	7	7	7
<b>合計</b>	<b>1113.5</b>	<b>1157.5</b>	<b>1210.5</b>
中部	'17夏期	'17冬期	'18夏期
中国	131.5	109	110.5
東南アジア	56	61	61
韓国	50	49	49
香港	35	39	35
北米	33	30	31
台湾	27.5	25	23.5
ヨーロッパ	8	8	12
その他	7	5	5
<b>合計</b>	<b>348</b>	<b>326</b>	<b>327</b>



# 2018夏期 国際線(旅客便) 空港別推移(新千歳・福岡・那覇) 国土交通省

**【新千歳】** 上海吉祥航空の南京路線開設及び上海路線増便により中国方面が増加。一方、ユナイテッド航空がグアム路線を運休('17冬期中)。

**【福岡】** バニラエアの台北路線及びタイガーエア台湾の高雄路線新規開設により台湾方面が、ジンエアーの仁川路線及びエアプサンの釜山路線増便等により韓国方面が、香港ドラゴン航空の増便により香港方面がそれぞれ増加。

**【那覇】** マンダリン航空の台北路線増便やタイガーエア台湾の高雄路線増便により台湾方面が、香港航空及び香港ドラゴン航空の増便により香港方面が増加。

単位：便/週

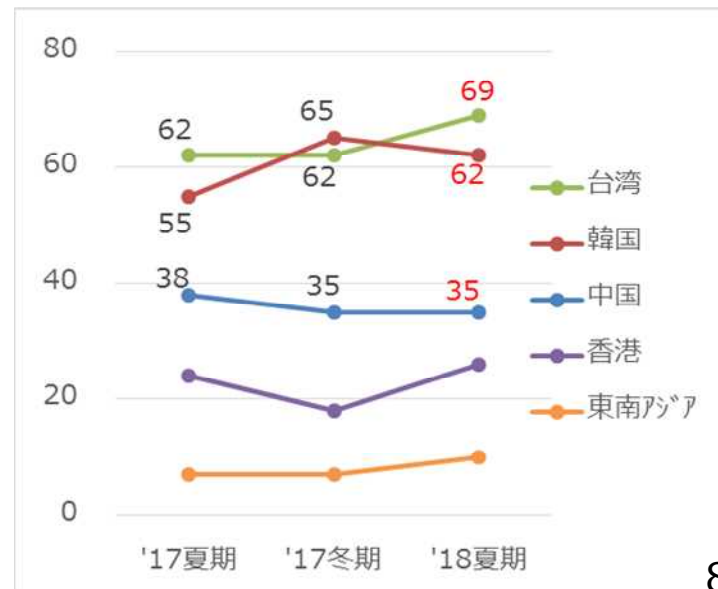
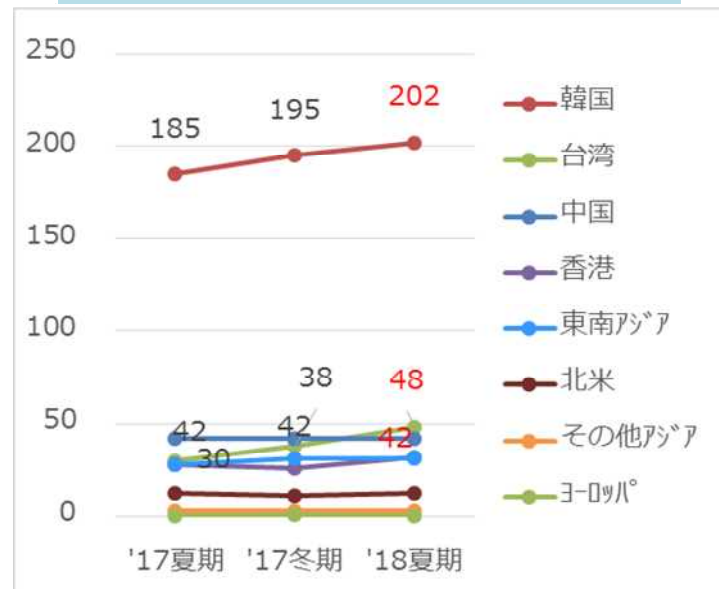
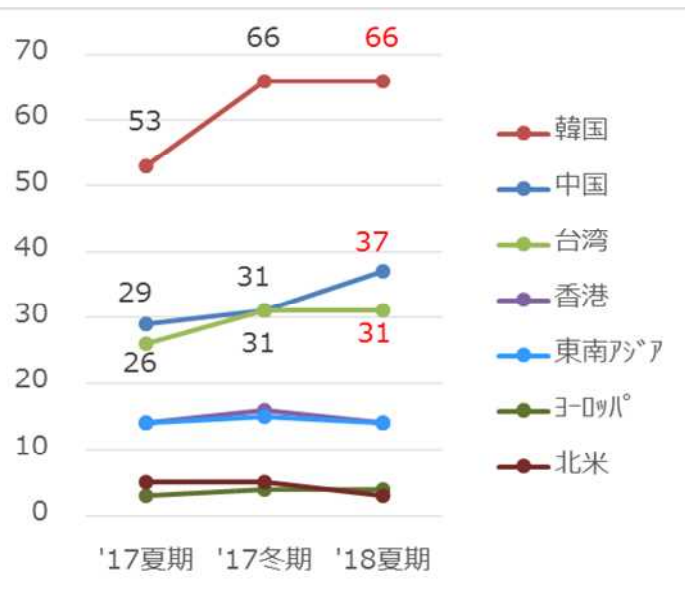
新千歳	'17夏期	'17冬期	'18夏期
韓国	53	66	66
中国	29	31	37
台湾	26	31	31
香港	14	16	14
東南アジア	14	15	14
ヨーロッパ	3	4	4
北米	5	5	3
合計	144	168	169

単位：便/週

福岡	'17夏期	'17冬期	'18夏期
韓国	185	195	202
台湾	30	38	48
中国	42	42	42
香港	28	25.5	32
東南アジア	28	31	31
北米	12	11	12
その他アジア	3	3	3
ヨーロッパ		1	
合計	328	346.5	370

単位：便/週

那覇	'17夏期	'17冬期	'18夏期
台湾	62	62	69
韓国	55	65	62
中国	38	35	35
香港	24	18	26
東南アジア	7	7	10
合計	186	187	202





# 2018夏期 国際線(旅客便) 空港別推移(その他 地方空港)

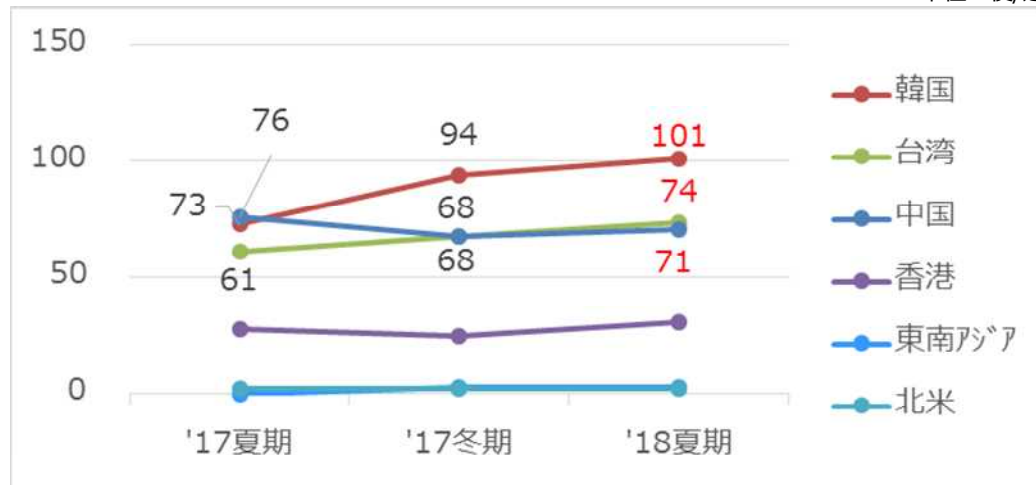
【旭川】 タイガーエア台湾が、台北線を開設。  
 【小松】 タイガーエア台湾が、台北線を開設('17冬期中)。  
 【岡山】 タイガーエア台湾が、台北線を増便。

【佐賀】 ティーウェイ航空が、仁川線を増便。  
 【熊本】 香港エクスプレス航空が、香港線を開設('17冬期中)。  
 【宮崎及び鹿児島】 イースター航空が、仁川線を開設('17冬期中)。

単位：便/週

その他	'17夏期	'17冬期	'18夏期
韓国	73	94	101
台湾	61	68	74
中国	76	68	71
香港	28	25	31
東南アジア		3	3
北米	2	2	2
合計	240	260	282

単位：便/週



空港	17夏期	17冬期	18夏期
函館	13	11	12
旭川	4	0	2
青森	3	7	5
仙台	17	26	21
茨城	6	6	6
新潟	7	10	10
静岡	24	23	22
富山	11	8	11
小松	14	12	14
高松	20	20	20
松山	2	3	5
米子	5	5	7

空港	17夏期	17冬期	18夏期
岡山	19	21	23
広島	27	29	30
山口宇部	0	3	0
北九州	12	14	14
長崎	6	5	5
大分	6	7	7
佐賀	8	10	12
熊本	3	9	12
宮崎	7	7	11
鹿児島	19	22	26
石垣	7	2	8
合計	240	260	282

# 2018夏期 国際線 LCC便数推移

LCCは、期首時点において21社が運航し、全体で1,357便/週。'17冬期比で110.5便/週増加。  
うち、本邦社が24.5便/週、韓国社が43便/週、台湾社が14便/週それぞれ増加。

